

# 近江道路土木(株)



## 2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年4月21日～2024 年4月20日)



作成日： 2024年6月20日

表紙の写真の説明

上段の左側：国土交通省 近畿地方整備局 大戸川工事事務所

「大戸川ダム付替県道大津信楽線上流区間他舗装その他工事」2021(R3)施工

上段の右側：滋賀県「思川河川改良工事」H26(2014)施工

下段の左側：滋賀県「水口甲南線（水口橋）補助道路整備工事」H28(2016)施工  
[H29(2017)滋賀県土木交通部長賞]

下段の右側：㈱昭建「近畿自動車道紀勢線 周参見第一トンネル他コンクリート  
舗装工事」H27(2015)施工

## 目 次

項 目	ページ
あいさつ	4
環境経営方針	4
組織の概要	5
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8～11
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	12
緊急事態対応訓練	13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14
これまでの環境活動の紹介	14

弊社は、昭和57年（1982年）5月14日に設立して以来、公共事業を通して地域の社会資本を整備し、官公庁や民間のお客様に満足してもらえるよう心がけております。

市町村合併が進みました平成16年（2004年）におきまして、当地域では10月1日に旧甲賀郡の5町が甲賀市、同じく2町が湖南市にそれぞれ合併しました。このような中、平成17年（2005年）8月21日に、弊社と湖南市に本店のある昭和アスコン工事株式会社が対等合併し、今日に至っております。

弊社が従前から行ってきた「土木工事」と、昭和アスコン工事株式会社が専門に事業展開していた「道路工事」との、お互いの長所が相乗効果を発揮することにより、真に価値のある社会資本の充実、地域環境の整備につとめていきたいと考えております。

## 環境経営方針

### <環境経営理念>

当社は、地球環境の保全を経営の重要課題の一つと認識し、全ての事業活動を通じ、環境への影響に配慮し、持続的な発展が可能な循環型社会の構築に貢献します

### <活動方針>

当社は、甲賀・湖南地域を中心に主に土木・舗装工事業を行なう中で、環境経営理念に基づき地球規模での環境への影響を理解し、全従業員でエコアクション21環境経営システムを構築運用し、以下の事項について自主的、積極的に取り組みます。

1. 環境関連法規制を遵守し、環境汚染防止を推進します。
2. 環境影響を軽減するため、環境経営目標を定め、次の活動を実施します。  
これらは、定期的に見直し、継続的改善に努めます。
  - 現場施工において、環境に配慮した機械の使用、工法に取り組みます。
  - 地球温暖化防止のため、省エネ推進と重機車両等社有車の省燃費に取り組みます。
  - 事業活動に伴う廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより、建設リサイクルを推進します。
  - 省資源に努め、会社で使用する水を削減します。
  - 資機材・製品等のグリーン調達を推進します。
  - 化学物質の使用量を把握し、適正使用の管理に取り組みます。
  - 地域環境保全のためサイト周辺県道・市道の美化活動を推進します。
  - 季節に即したクールビズ・ウォームビズを推進します。
3. この環境経営方針は教育や日常活動を通じて全従業員に周知します。

制定日 2018年 5月 1日

改訂日 2019年 5月 1日

近江道路土木株式会社

代表取締役社長 山元正史

- (1) 名称及び代表者名  
近江道路土木(株)  
代表取締役社長 山元 正史
- (2) 所在地  
本 社 滋賀県甲賀市信楽町勅旨1993番地  
石部営業所 滋賀県湖南市石部北二丁目2番19号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先  
責任者 代表取締役 山元 正史 TEL：0748-83-8060  
担当者 常務取締役 舟瀬 昌和 TEL：090-3618-5698
- (4) 事業内容  
一般建築業
- (5) 事業の規模  
売上高 595 百万円 (2023年度)
- |                      | 本 社                  | 石部営業所               |  | 合計    |
|----------------------|----------------------|---------------------|--|-------|
| 従業員 名                | 5 名                  | 12 名                |  | 17    |
| 延べ床面積 m <sup>2</sup> | 284.6 m <sup>2</sup> | 83.5 m <sup>2</sup> |  | 368.1 |
- (6) 事業年度 2023 年 4 月 # 日 ~ 2024 年 4 月 # 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 近江道路土木(株)  
対象事業所： 本 社  
石部営業所

対象外： なし  
活動： 土木工事業

□事業の紹介

登録、資格： 建設業 滋賀県知事許可 特定建設業 第30642号  
(特-4) 土木、とび、土工、舗装、しゅんせつ、水道施設、解体  
ISO 9001認証 JA0216-23Q-1  
エコアクション21認証・登録 0001869

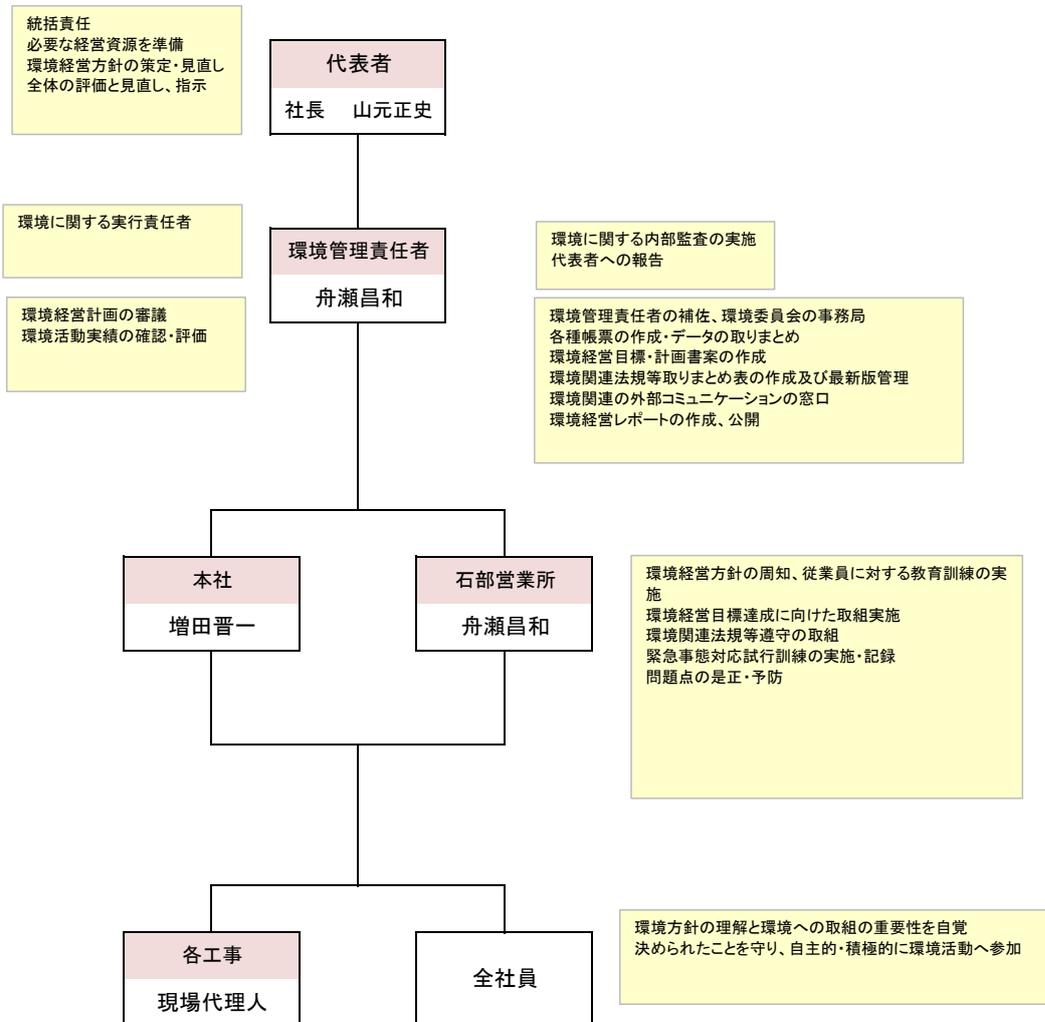
事業内容： 道路改良工事、舗装工事、下水道工事、河川工事を主とした土木工事

主な工事： 土木工事  
滋賀県発注 平成25年度 思川河川改良工事  
甲賀市発注 平成31年度 市道鹿深・京町線外道路整備工事  
滋賀県発注 令和4年度 彦根八日市甲西線（横田橋）補助道路修繕工事  
滋賀県発注 令和4年度 東湯舟甲賀線補助道路整備工事

**舗装工事**  
国土交通省発注 令和2年度 彦根出張所管内舗装修繕工事  
国土交通省発注 令和2年度 大戸川ダム付替県道大津信楽線上流区間他  
舗装その他工事  
滋賀県発注 令和4年度 高山長浜線他補助道路雪寒対策工事  
滋賀県発注 令和5年度 彦根近江八幡線補助道路修繕（舗装修繕）工事

# □環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2023年4月21日



## □主な環境負荷の実績

項目	単位	基準年		
		2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	151,585	129,274	136,646
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	554	594	554
産業廃棄物排出量	トン	3,306	821	2,293
総排水量	m <sup>3</sup>	225	213	202

※二酸化炭素排出係数 0.309 kg-CO<sub>2</sub>/kWh 電力会社の調整後の係数

※負荷の実績は工事現場を含む

## □環境経営目標及びその実績

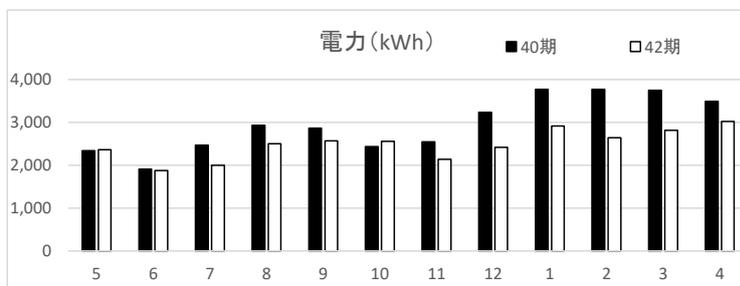
項目	年度	2023年			評価	2024年 (目標)	2025年 (目標)
		2021年 (基準値)	(目標)	(実績)			
電力による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	10,970	10,751	9,210	○	10,641	10,532
	基準年度比		98%	84%		97%	96%
原単位	kg-CO <sub>2</sub> /千円	0.012	0.012	0.015	×	0.012	0.012
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	141,133	138,310	123,200	○	136,899	135,487
	基準年度比	40期	98%	87%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	152,103	149,061	132,410		147,540	146,019
一般廃棄物の削減	kg	530	519	554	×	514	509
	基準年度比		98%	105%		97%	96%
産業廃棄物の削減	kg	4,561,740	4,470,505	2,293,320	○	4,424,888	4,379,270
基準年度比			98%	50%		97%	96%
建設副産物の再資源化率の向上	%		95%	99.6%	○	95%	95%
水道水の削減	m <sup>3</sup>	246	241	202	○	238	236
	基準年度比		98%	82%		97%	96%
化学物質の適正管理		適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理
基準年度比							
環境に配慮した工事の推進	行動目標(次項による)						

## □環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標:○達成 ×未達成

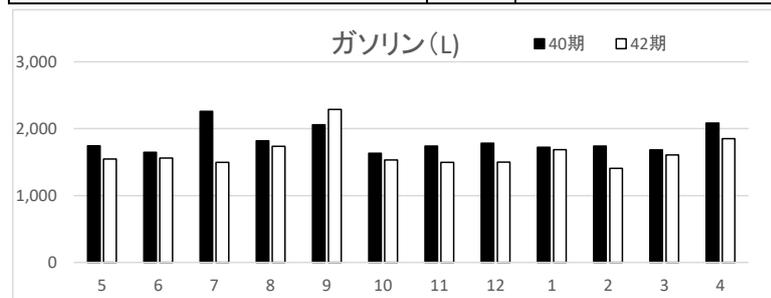
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価
<b>電力による二酸化炭素削減</b>	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	2023年は春から秋にかけて気温の高い状態が続き、低温は一時的だったため、年平均気温は全国的に高く、特に西日本でかなり高かった。さて当社当期の二酸化炭素排出量は全体としては目標値に対して絶対値では16.0%削減となった。今期は現場事務所を設置する工事が無く現場での使用量は発生しなかったことが大きい。各部署での不要箇所の使用停止・設定温度管理の徹底や各人は働き方改革に取り組む業務効率の向上を図り使用時間の縮小、等、節電活動が取り組んでいる事も重要と考えるので、来期でも継続し取り組んでいく。
原単位目標	○	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯	△	
・働き方見直しによる残業時間の短縮	△	
・作業・業務の見直しによる効率化	△	

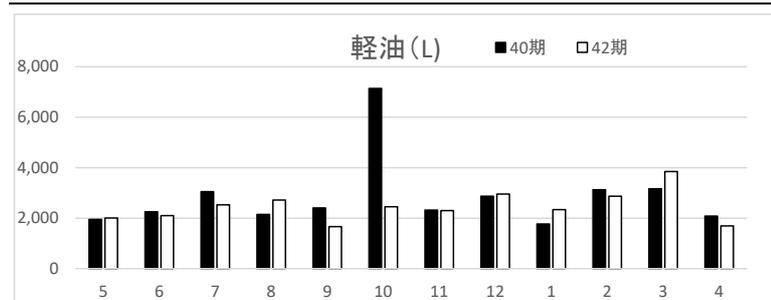


	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
40期	2,340	1,907	2,467	2,933	2,864	2,437	2,545	3,233	3,772	3,772	3,749	3,491
42期	2,361	1,874	1,998	2,503	2,570	2,556	2,138	2,415	2,916	2,639	2,813	3,024

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	社有車運転時のエコドライブの実施が各人に定着してきており、急発進の禁止ややさしい発進、加速・減速の少ない運転の実施に取組み、燃費の向上が図れている。また、施工現場での重機運転時も同様にアイドリングストップの実施や急動作の禁止や、環境対策型建設機械を使用し燃料の削減に取り組んでいる。
・アイドリングストップ	○	

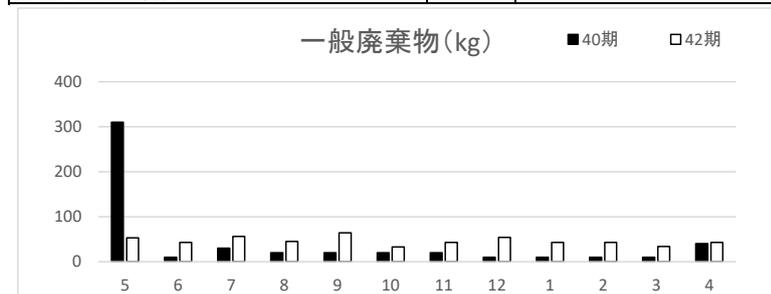


	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
40期	1,745	1,648	2,260	1,819	2,060	1,632	1,739	1,781	1,723	1,740	1,683	2,082
42期	1,546	1,562	1,495	1,737	2,289	1,533	1,498	1,501	1,688	1,408	1,608	1,852



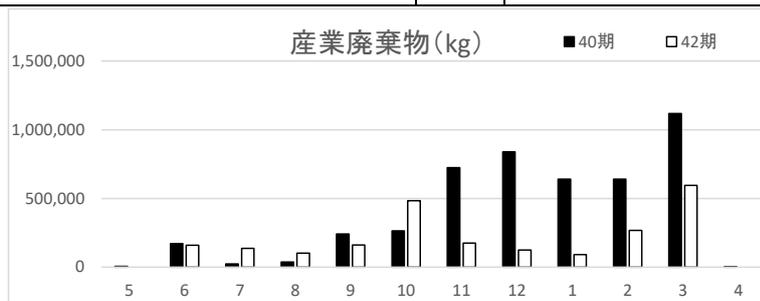
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
40期	1,952	2,249	3,050	2,151	2,406	7,138	2,323	2,867	1,769	3,126	3,166	2,086
42期	2,011	2,097	2,530	2,720	1,661	2,453	2,303	2,952	2,342	2,865	3,844	1,691

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	事務所関係は見積の増加が影響し計画より多くなったが、ゴミの分別徹底や、印刷用紙の裏紙利用や印刷時の設定確認、PDFデータでの保存など意識的に減量に努めており来期も継続していく。施工現場では、電子化の活用を行い計画を達成できている。
・分別の徹底	○	
・印刷ミスの削減	△	
・電子化の推進	○	
・持込ごみの排除	○	



	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
40期	310	10	30	20	20	20	20	10	10	10	10	40
42期	53	43	56	45	64	33	43	54	43	43	34	43

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	産業廃棄物の適正処理に重点を置き、産業廃棄物の分別はじめ建設混合廃棄物の把握、建設リサイクルの推進等に取り組み、混合物の量は減少しました。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・素材別ボックスの設置	○	
・リサイクル業者の開拓	○	



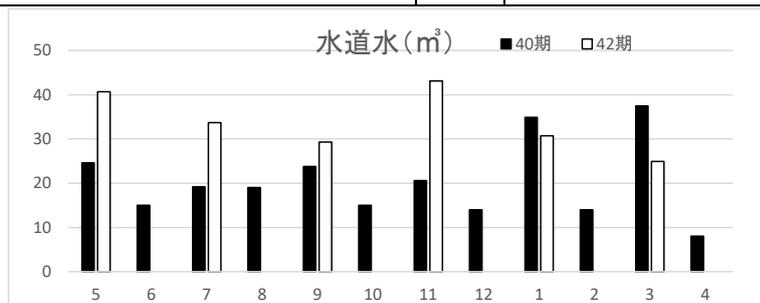
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
40期	6,185	170,850	23,440	37,735	240,780	263,760	723,840	839,780	640,780	640,780	1,118,490	3,380
42期	0	158,890	136,350	101,580	160,365	483,065	174,990	124,405	91,740	267,255	594,680	0

建設副産物の再資源化率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	—	産業廃棄物の分別の徹底に際し、混合廃棄物の削減のための分別にも注視し、再資源化率99.6%を実現することができた。
・分別の徹底	○	
・再資源化先の開拓	△	

取組紹介欄



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	事務部門では日々の節水活動が出来ており計画を達成できている。工事部門においては、各人の節水意識は高く保てているので、次年度についても点検をこまめに行い、お互いに節水よびかけを徹底するようにします。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水弁取り付け	○	
・自動水栓取り付け	○	



	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
40期	25	15	19	19	24	15	21	14	35	14	38	8
42期	41	0	34	0	29	0	43	0	31	0	25	0



化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
適正管理	○	必要適正量の資材購入及びSDSによる保管の適正化に努められた。次期も引き続き適正管理を継続して行く。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・従業員教育	○	

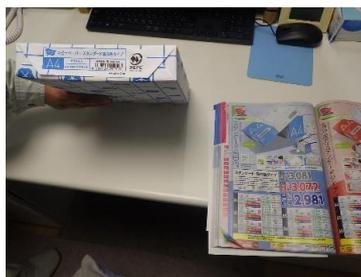


環境に配慮した工事の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・工事の効率化	○	全ての工事において低騒音、低振動、排気ガス抑制型の重機使用に努めた。(バックホウ、ローラー)
・作業ミスの防止	○	
・顧客クレーム削減	○	
・廃棄物の再資源化の推進 (別項目で実施)	○	



## グリーン購入への取組

### PEFCマーク コピー用紙使用



## □環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出
道路運送車両法	車両の大きさ・重量、乗車の保安基準
道路交通法	車両の大きさ・重量、通行制限
道路交通法	車両からの積載物のはみ出し、安全運転管理者等
建設リサイクル法	解体工事、建設副産物、再資源化等の実施、報告、記録の作成
建設機械に関する技術指針	排気ガス対策型建設機械の使用義務
騒音規制法	対象特定建設作業の届出、規制値の遵守
振動規制法	対象特定建設作業の届出、規制値の遵守
水質汚濁法	油類・有害物質の保管
浄化槽法	浄化槽
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機（第一種特定製品に対する定期的な簡易点検の励行）
高圧ガス保安法	圧縮アセチレンガスの保管と消費の基準の遵守
甲賀市ルール	一般廃棄物の分別、収集、排出
湖南市生活環境保全条例	油類等の流出防止

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

## 緊急事態対応訓練

<b>緊急事態の想定： 火災の発生</b>	
■実施日： 2023. 10. 25	■実施場所 石部営業所
■参加者： 舟瀬昌和 増田晋一 山本大悟 小野正 斗志	・ 通報訓練、消火訓練、避難訓練
■評価： 有効	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
<b>■実施状況の様子</b> (㈱昭建合同実施)  ㈱昭建・昭建運輸㈱との合同消火訓練。 水消火器を使用しての消火訓練を実施。 当社は11名と協力業者2名の参加であり、短時間だか全員が消火器を取り扱った。 消火の際は風上から消火する事や、数名にて消火を行う事が望ましい等々、皆で意見を出し合い 消火方法の再認識に役立った。 全員が定期的に訓練を実施する有効性を確認した。	
	

<b>緊急事態の想定： 大規模地震発生時初動活動訓練</b>	
■実施日： 2023. 12. 20. (水)	■実施場所 国道307号 (甲賀市信楽町上朝宮付近)
■参加者： 舟瀬昌和	■実施内容 大規模地震発生時初動訓練 (連絡網による指示系統、内容の確認訓練)
■評価： 有効	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
<b>■実施状況の様子</b> 滋賀県甲賀土木事務所、建設業協会甲賀支部との合同訓練。 1. 大規模地震発生→甲賀土木事務所より、災害対策委員へ派遣の要請 2. 派遣された災害対策委員から各地区責任者へ詳細の連絡 3. 各地区責任者から現場対応者(第1班)へ現場出動要請。→現場出動。 4. 各地区責任者から応急復旧担当者(第2班)へ出動準備要請。→待機。 今回の訓練では、当社は現場対応者(第1班)であった為、連絡要請後速やかに 現場へ出動した。 災害対策組織図を基に連絡、行動共に手順良くスムーズに実施できた。 各社協力しての地域合同災害対策訓練の必要性が再認識できた。	
	

## □代表者による全体の評価と見直し・指示

当期におけるわが国経済は、コロナ禍を乗り越え、雇用・所得環境の改善や経済活動の正常化がすすみ、緩やかな回復基調を辿りました。一方で、物価上昇、金融市場の急激な変動、世界的な金融引き締めや中国経済の先行き懸念等の影響により、今後も注視が必要な状況であります。建設業界におきましては、公共投資は底堅く推移するとともに、民間設備投資も企業収益の改善に伴い回復傾向が見られるものの、受注競争の激化に加え、建設資材価格や人件費の上昇など依然として厳しい事業環境が続いています。その中で当社は、当社の規模と市場の地位にふさわしい経営環境システムを構築して17年間、統一した評価基準に基づき運用を続けてきました。あわせて課題とチャンスを明確にした上で環境経営に取り組んでいるところです。また、令和2年にはSDGsに係る社員研修をして出席社員の合意を得た上でSDGsアクション宣言を行い環境活動に取り組んでおります。これらの活動を通して最も重要なことは、当社の全従業員が日常的に地球環境への関心を抱いてくれることにあることは変わりません。

産業廃棄物搬出量は受注工事の内容で左右されるが、水使用量についても同様ですが、各人の意識改善で無駄遣いは防げる。又ゴミの分別、ゴミ袋の少量化等、個人単位の具体的な取組みがSDGsに繋がる事を従業員全員に通知し、個々の認識の向上を図っている。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

## □これまでの環境活動の紹介

### 【毎月1回 美化活動（本社周辺のゴミ拾い）】

2023.7.13.



2024.2.8



### 【県下一斉清掃運動】

2023.11.30.

